| 開催地名：高知県南国市 | |
|---|---|
| 開催日時 | 令和 5 年 1 月 22 日（日）　9：30　～　12：00 |
| 開催場所 | ザ・ミーニッツ |
| 語り部 | 大河内　喜男　（福島県いわき市） |
| 参加者 | 市危機管理課、自主防災組織、関係機関　42 名 |
| 開催経緯 | 本市は幸いなことに大規模災害を経験していないことから、大規模災害発生後の自主防災組織をはじめとする住民にどのような災害対応が必要となるかといった防災意識を持つことが課題となっている。このことから、過去の災害体験や教訓を受け継ぐことで防災意識の向上を図ることを目的としている。 |
| 内容 | （１）はじめに<br>私は福島県いわき市の薄磯という所に居住している。漁港として有名な小名浜港のそばで、現在は観光名所となっている塩屋埼灯台のそばにある。<br>2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震による大津波は、薄磯地区に大きな被害をもたらした。大津波は防潮堤を大きく乗り越えて集落全部を飲み込み、ほとんどの家屋を破壊した。津波の高さは 8.5 メートルに及び、住宅被害は、全壊家屋が 87 パーセント、このうち流失家屋は 65 パーセントを占めた。公共施設のうち唯一、集落の最も奥に位置していた豊間小学校の校舎はかろうじて難を逃れた。薄磯地区の被害はいわき市内で最も多く、約 780 人の人口のうち 116 人が亡くなった。<br>この地震が発生した 2011 年 3 月 11 日の午後、私は内陸部にある病院の待合室にいた。いわき市では震度 6 弱の揺れを観測した。津波が来るのですぐに避難するよう指示が出されていたが、私は家族のことが心配ですぐに車で自宅に向かってしまった。あと 2 キロの所で道路が陥没していて立ち往生し、ようやく自宅付近にたどり着いた時には、すでに大津波が来た後だった。たまたま私は助かったが、私のような行動をとった人たちが大勢犠牲になっている。<br>いわき市では過去数百年の間、大きな津波被害を受けた具体的な記録が残っていない。また、今生活している私たちにも津波被害の経験がないため、市民の間では津波に対する警戒意識がほとんどなかった。そのため、津波はここまで来ないという思い込みにより、すぐに避難所に向かう人は少数で、海を見に来ていた人が大勢津波の犠牲になってしまった。<br><br>（２）災害に対する心構え<br>身の回りで災害が起こった時、どれだけ安全な行動がとれるかが命を守れるかどうかのターニングポイントとなる。実際に災害に直面すると、多くの人はパニックとなり、どうしていいかわからなくなってしまう。家族がいれば、その安否も気になるのは当然であるが、一番大事なことは、何があっても一人一人が自分の命を守るということである。自分の命を守ること、生き抜くことが最優先され、その行動が周りの多くの命を助けることにつながる。日頃から災害に対する意識を持ち、備えをしておくことが重要である。そして、「逃げろ」と避難を促すことができる人間になることが重要だ。<br>ハザードマップや避難所については、書類等で確認するだけでは自分の命を守ることはできない。地震だけでなく、現在全国で発生している様々な災害から身を守るには、避難所は |

| | |
|---|---|
| | どこにあるのか、そこに行くルートはどうなっているのか、周辺に危険な箇所はないか等について、自分の目で確かめることが大切だ。この行為が安全なまちづくりや避難ルートの確認につながるので、是非家族と一緒に「防災まち歩き」に取り組んでいただきたいと思う。また、最低でも２，３日しのげる食料を準備しておくことや、その他各々の必需品を準備しておくことが必要だろう。<br><br>（３）避難所の状況<br>東日本大震災時には市内の各所に避難所が開設され、私の避難所生活は２か月半に及んだ。避難所生活で一番の課題はトイレの問題である。避難所によっては数百人以上の人々が、数時間の利用ではなく、数か月以上も滞在するので、足りない上に使用頻度は極めて高く、清掃や廃棄等が追い付かずにすぐに使用できなくなってしまう。少しでも改善するには、簡易トイレなどを準備して、なるべく使用を分散させるしかない。避難してきた人たちがいかに協力しあえるかが重要なポイントになるが、町内会や自主防災会の役員だけでなく、避難してきた住民も巻き込んで運営していくのが理想だと考える。<br>また、避難生活が長期化するといろいろなストレスがたまる。原発のある県内の他の自治体から、約５万人の人々がいわき市に避難してきたことで、市内の幹線道路の渋滞、病院・スーパーの混雑、他県もしくは外国人の窃盗団による盗難被害等、想定していないことが次々と起こった。支援物資の保管場所や保管方法、そして配布方法についても避難所運営スタッフの頭を悩ませた。平常時では考えられないことだが、避難所内では支援物資の奪い合い等も実際に発生した。<br><br> |
| 開催地より | 東日本大震災の被災体験談について、具体的なお話を織り交ぜてお話しいただいた。改めて東日本大震災に対するイメージを強く認識することができたと思う。今後当市としては、自主防災組織や地域住民へのさらなる啓発と、避難所運営訓練等の実践演習に取り組んでいきたい。 |